

隠し墓

安久山を歩く

市内の里山が新緑に包まれるようになりました。大シイ（スタジイ）の巨木で知られる安久山区（飯高地区）には、

地域の歴史を伝える円静寺の板碑群や芭蕉の句碑などがあり、今回紹介する「隠し墓」もその一つです。

隠し墓とは、江戸時代に幕府から活動を禁じられた日蓮宗不受施派という宗派があり、同派では探索を逃れ今に伝わる僧侶や信者の墓をそう呼んでいます。

多古町や隣接する飯高、吉

田、豊和地区など香取郡の一部地域の村々では、江戸時代200年近くにわたり信仰活動が続きました。

幕府の宗教政策により、僧侶や信者の捕縛や流罪などの弾圧を受けたことが続き、不受施派ではこれを「法難」といっています。寛永、寛文に続く1691年の「元禄法難」では、江戸や下総で活動していた僧80余人が捕縛され、三宅島や八丈島など伊豆諸島へ流罪となりました。このうち、市域の村々を活動拠点としていた僧

さ120cmほどで、神津島へ流罪となった自証院日誉のものです。多古・島村生まれの日誉は、流罪になる前年に逆修（生前にあらかじめ自己の死後の冥福を祈ること）の供養碑を建て、捕縛される2か月前の金原新田での活動が知られています。

左側の墓は高さ60cmほどの清心院日達のものです。安久山生まれの日達は三宅島に流罪になり、1691（元禄4）年10月、60歳で亡くなりました。島送りの舟中での死亡や、島で餓死する僧もいたそうので、知らせを受けてここに墓石を建てたのでしょう。

1794年、大堀村では取り調べの際に、「あやしき石塔（隠し墓）」が村内に存在しないことを報告していますが、市域には数基の隠し墓が残されています。

不受施派の法難は、1794年から1830年の寛政、天保と続き、多くの信仰農民が処罰を受けました。「隠し墓」はそうした歴史を今に伝えるものです。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘書課広報聴班

☎ 73・0080



安久山区にある清心院日達と自証院日誉の「隠し墓」

安久山区にある共同墓地の奥まった木下家の墓地に、写真の隠し墓があります。

右側は高